

### ● 開く受験する子の無表情 //

の花香は海、周囲はまだ冬の気配だが、2月の声と冬眠から覚めた万物の躍動がはじまる。世の中の状況に関わらず自然は春を表現して人心を楽しませる。しかし、受験の子を持つ親にとつても、子でもこの頃が、迫る試験日に梅どころではないと思える。

### ● 羽力の法則ジェット機落つことし //

4日、航空界史上最大の惨事羽田沖にボーイング707機133人の犠牲者を、さらに3月4日羽田航空機ダグラスDC8型着陸に失敗炎上し、つづく5日英旅客機BOAC707機富士に衝突死者124人を出すと、またまた重大事故が相ついで起つた。年々増加する利用者に対し今後このような悲惨な事故のないよう関係者の細心の注意を喚ぶ。わが国の航空利用者の伸長率は、昭和30年と比べて、運輸省調べによる昭和38年航空路線の旅客は397万にあり、前年(270万人)に比し34%も増加している。

### ● 国鉄が示すお手本値上また //

7日から国鉄運賃の大巾な値上、また、東上ブームを巻き起しそうな気配。本戸~東京間で35%も値上り、その急を名称だけは急行と改めて急行券を発売してもうけようというもの、何んだか不安な感じがする。

### ● 狭くなる国土9千8百万 //

行なわれた国勢調査の確定人口がこのほど公表されたが、日本の人口は9827万人で、前回に比し486万(5.2%)増加して、人口では世界で7番という大国に。そして東京都の人口はその10分の1に当る1,000万人を突破、東京から阪神地区にかけて人口が集中するようになった人口分布状態を示している。

### ● 喰うための背広野良着に替えて着る //

5年中間農業センサスによる農家数、農家人口などについて前回(1960年)と比べてみると、農家数において3.9%減少しているが、農家人口では10.5%、さらには農業従事者は27.5%と大きな減少率を示している。社会の波風に押し流され農業の型態は大きく変わろうと

している。百姓では喰つていけない(生産性、所得格差など)と若い人達も野良着を脱いで現金収入を求めて他の産業に転換していくようである。

### ● 農業の行方気になる兼業化 //

瑞穂の国といわれたわが国の産業形態が大きく変わっていく、特に農家の変動が著しい。農家が近代的な文化生活、いわゆる人並に喰つていくために所得の多い他産業に移つていく兼業化が目立つて多くなっている。中にはこんな例もある、農家のムコ取りの場合、その娘さんが農業をやつてはムコさんに来手がないと、猫の手でも借りたいような大農家でも娘さんをムコ取りの手段としてサラリーマンにしているとか、農業センサスからみた専業農家は69,419戸で前回に比し38.7%減少しているのに反し農業が主の兼業農家は28.3%の増加し、他の業が主の兼業(第2種)が25.2%とそれぞれ大きく増加し兼業化が目立つ。

### ● 牛鍋に入っている運命の牛の数 //

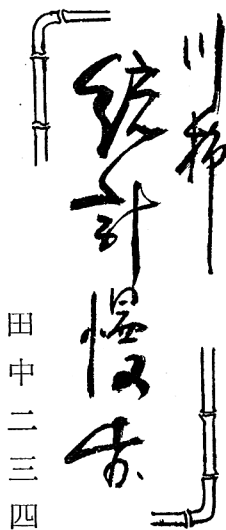
これも昨年の農業センサスから、私達の考えでは畜産振興対策などで牛の飼養頭数がどんどん増えているかと思つていたが、ここに表われた数字によると乳牛は23,538頭で前回(1960年)に比し28.6%増加しているのに反し役肉牛は40,281頭で46.3%の減少を示し、牛全体として30.5%減と大きく後退していることになる。

### ● 斜陽化のお馬昔を恋しがり //

昔から馬ほど人間生活に深いつながりを持つている動物はなかつたろう。武将が戦場を馳せ、荷物を運び、大戦中にも動員されて戦場に数々の話題を残したこの馬も機械の発達によつて著しく減少し、現在では路上でその姿を見ることも出来なく、将来は動物園に保護されるようになってしまふかもしれない。農業センサスに表われた馬は僅かに3,635頭で、5年前にくらべ13,148頭(77.9%)も減つてしまつた。時代の移り変りに滅びゆくものの宿命を寂しく感じられる。

### ● エンジンの響き田んぼに畑にも //

牛馬の減少と対照的に農作業の機械化が急激に進んでいる。センサスの結果による動力耕うん機は98,143台あり、前回(14,789台)にくらべ5年間に83,354台(564.0%)と驚くほど増加し農業近代化の傾向が顕著に表われている。



田中二三四

⑰

# 統計の交差点

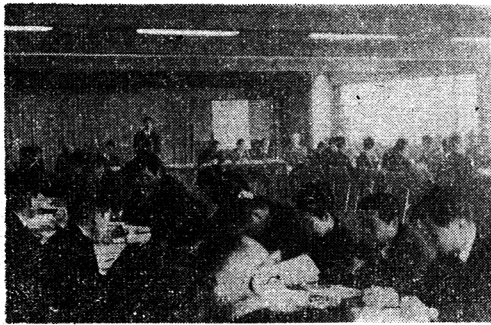
## 市町村統計主管課長会議

去る2月18日午前10時から水戸市田見小路国保会館で県内各市町村の統計主管課長会議が開かれた。

企画開発部長の挨拶に引きつづいて下記の議案について審議午後5時終了した。

### 記

- 1 県統計課からの総括説明
- 2 40年度統計調査事業の執行状況について
- 3 41年度統計調査事業について
- 4 その他の事項について



## 全国統計主管課長会議

行政管理庁主催による第60回全国統計主管課長会議が去る2月8日総理府講堂で開かれた。定刻行政管理庁長官の挨拶に始まり、後藤基準局長の挨拶、琉球政府統計調査課長、統計基準局職員の紹介があり議事に入る、まづ統計基準局企画課長の総括的な説明があり、下記の議題について議事が進められた。

- 1 昭和41年度統計専任職員の配置定数について
- 1 昭和41年度統計専任職員委託費について
- 1 昭和41年度地方統計職員業務研修について

以上で主なる議案の審議は終り、午後には各省庁関係の説明があり閉会した。

## 関東甲信静ブロック統計主管課長会議

標記の会議が去る3月4日千葉県庁会議室で下記の議題について協議が行なわれた。

### 記

- 1 各都県における昭和41年度県単統計事業計画の概要について

## 2 各種統計調査実施上の諸問題について

### 労働力調査特別調査ブロック会議

昭和41年3月9日午前9時、千葉県庁第一会議室で打合わせ会議が、去る2月15、16の両日、神奈川県横浜市中区で開かれた。本県からも関係者が出席したが、主たる審事項は、昭和41年3月に行なわれるこの調査の調査方法や問題点などで総理府統計局よりの指示説明と各都県の資料に基づく意見交換発表など

### 経済指数講習会と第12回統計図表指導者講習会開かれる

統計関係者の経済指数に対する基礎知識の修得と図表指導者の養成を目的に全国統計協会連合会主催の講習会が日を前後して、東京都内赤坂公会堂で開かれた。

経済指数講習会は、3月8、9の両日、図表指導者講習会は3月10、11日の2日間下記講師と日程で行なわれた。

#### 経済指数講習会

3月8日(火)	経済指数の基礎	一橋大学教授 伊太知良大輔
10.05~12.00		
13.00~16.00	生産指数	通産大臣官房 統計部解任課長 深田正
3月9日(水)	経済指数の数理論	行政管理庁 標準局 水谷正
10.00~12.00		
13.00~16.00	物価指数	総理府統計局 統計課長補佐 山田正

#### 統計図表指導者講習会

3月10日(木)	統計図表作成上の基本について	総理府統計局 計課長補佐 小野正
10.05~16.00		
3月11日(金)	色彩・形態の基礎	千葉大学教授 森正
10.00~12.00		

#### 討論会(講師を囲んで)

東京教育大教授	美濃部 亮
千葉大教授	森 桂一
総理府統計局	小野 正
東京芸大助教授	末田 雅一
国会・行管統基局長	後藤 正

## 県統計協会理事会

理事会は去る2月4日(水)午前10時から、水戸市水府荘において開催された。主たる議題は下記のと

記

昭和40年度事業の中間報告  
昭和41年度事業計画の概要について

### 県統計協会総会開かれる

昭和40年度茨城県統計協会の総会が、来る4月8日午前10時30分から水戸市水府荘で開かれます。議案が審議されます。

記

昭和39年度歳入歳出決算の承認について  
昭和41年度事業計画について  
昭和41年度歳入歳出予算について

### 笠間市統計協会

笠間市統計調査員研修大会は、去る2月28日午前10時から市立井筒屋旅館で全市の調査員が参集盛大に行なわれ、市長、議長のあいさつと表彰、昭和39年度の決算の承認、年度予算の審議などあり予定どおり終了した。本大会で永年勤続で県統計協会総裁表彰をうけられた市大橋の森進氏ほか2名が表彰された。

### 下館市統計調査員研修大会

下館市統計調査員研修大会は、去る2月15日市内の統計調査員多数出席のもとに盛大に開かれた。この席上永年勤続などで功績のあつた統計調査員に対して、飯泉宗三氏が表彰された。

### 第9回日立市統計調査員大会

日立市統計調査員大会が晴天にめぐまれた去る3月4日、日立市民会館で調査員多数参加して開かれた。大会は式次第に従って開会、市長あいさつ、表彰と予定どおり進み、議事として昭和39年度決算、41年度予算などについて審議された。宣言、万才三唱で開会となり、終つて県企画開発部

次長牧野秀一氏の、みてきたヨーロッパと題しての講演があり、聴衆を感銘させた。

なお本日の大会で表彰の栄に浴した方々は県統計協会総裁賞をうけられた同市成沢町の綿引菊寿氏ほか13名である。



### 統計協会からの出版物

県統計協会では、統計の普及広報の一環として、県統計課編集のものを増刷、希望者に頒布しております。近く刊行のものは下記のとおりです。

記

昭和40年版県勢要図 定価80円 54cm×77cm  
5月配布予定  
昭和40年版県勢要覧 定価250円 P152 発売中  
昭和39年版県統計書 定価1,400円 P320 5月配布予定  
何れも送料実費

希望者は……県統計課内 茨城県統計協会へお申し込み下さい。

### 編集室から

ご愛読をいただいている、前田香径先生著の人物郷土史も長くなりますので一応このへんで話題をかえ、県内のかくれた名所旧蹟めぐりを先生独特の筆致で書いていただくことになりました。直接読者の皆様の郷土と結びつくものもあり興味のあるものと思います。ひきつづいてご愛読をお願いいたします。

### 県統計課職員動き

新		旧
鹿島開発第二課 (鹿島臨海工業地帯開発組合派遣主幹)	主事 高野 登 (昭和41年2月1日付)	労働統計係
県議会出向	主事補 渡辺 洋子 (昭和41年3月15日付)	広報資料係
茨城県職員研修所講師(兼)	田中文司 (昭和41年3月1日付)	広報資料係長
〃 (〃)	宇留野 真一郎 (〃)	企画係長
行政管理庁主催 昭和40年度 統計職員養成所第6回専科修了	主事 関 操 (昭和41年3月5日付)	経済統計係

# 近 着 統 計 資 料 案 内

図 書 名	調査年 刊行年	発 行 者	図 書 名	調査年 刊行年	発 行 者
<b>総 記</b>			<b>各都道府県</b>		
日本統計月報	41年2月	総理府統計局	統計資料目録	40年	富 山
統計局報	"	"	学校教育統計書	40年度	埼 玉
統計情報	41年1月	行政管理局	大阪市勢要覧	40年版	大 阪
統計	41年2月	総理府統計局	京都府のすがた	41年版	京 都
			ポケット統計表	"	東 京
			県民所得推計報告書	39年	群 馬
<b>産業・経済</b>			法人企業経済調査結果概要	"	"
貯蓄動向調査報告	39年	総理府統計局	県勢要覧	40年	"
鉄道車両等生産動態統計	40年上	運輸省	香川県の工業	39年	香 川
小売物価統計調査年報	39年	総理府統計局	工業統計調査結果表	"	徳 島
法人企業統計年報	39年	大蔵省証券局	工業統計対象名簿	"	"
通産統計	41年2月	通産省	県民所得推計結果概要	"	千 葉
"	" 3月	"	兵庫県統計書	"	兵 庫
化学工業統計月報	" 1月	"	熊本県統計年鑑	"	熊 本
機械統計月報	"	"	富山県民所得白書	"	富 山
繊維	"	"	郷土のあゆみ	40年	栃 木
百貨店販売統計月報	41年1月	"	国勢調査結果速報	"	東 京
ゴム統計速報	41年2月	"	学校基本調査結果報告書	40年度	新 潟
食糧管理月報	41年2月	食糧庁	福井県工業統計表	39年	福 井
"	" 3月	"	個人経済力調査報告	39年	東 京
消費者物価指数(速報)	41年1月	総理府統計局	熊本県の経済構造	40年	熊 本
生産、出荷、倉庫統計速報	"	通産省			
紙パルプ統計速報	"	"			
			<b>茨城県</b>		
<b>社会・労働</b>			そ う わ	41年版	総 和
労働力調査報告	40年1月	総理府統計局	波崎町10年のあしあと	41年2月	波 崎
賃金構造基本統計調査報告	"	労働大臣官房労働統計調査部	市町村財政実態資料	39年度	茨 城 県 地 方 農 林 省 茨 城 査 査 事 務 所
" (1)	"		農業のうごき	41年刊	"
" (2)	"		茨城の米	"	"
" (3)	"		農業経営について農家の考	"	"
" (4)	"		え	"	"
法人企業の実態		国 税 庁	経営ダイジェスト	40年12月	茨 城 県 経 営 査 査 事 務 所
府県間転出転入者数		総理府統計局	県下における賃銀調査結果	40年8月	"
旅客地域流動調査	38年	運輸省	市町村公営企業財政実態資料	39年度	茨 城 県 地 方 農 林 省 茨 城 査 査 事 務 所
貨物地域流動調査	"	"	職業安定行政統計年報	39年	茨 城 県 職 業 安 定 行 政 統 計 課
賃銀、労働時間、雇用の動き	40年	労働大臣官房統計調査部	日 立	40年	日 立
労働統計調査月報	41年2月	"	労働市場月報	40年12月	茨 城 県 職 業 安 定 行 政 統 計 課
労働経済指標	40年12月	"	県内の商業	39年	茨 城 県 統 計 課
国民健康保険事業月報	41年5月	厚生省保険局			
家計調査報告	41年2月	総理府統計局			

# 名勝史蹟巡ぐり余聞

## (1) 滅びゆくものへの郷愁

前 田 香 徑



資源は他県にくらべて、それほど貧弱だとはいえない。我が田に水を引くわけではないが、古くは反をはじめ、霞ヶ浦沿岸の水郷地帯、袋田四重入慈の自然、日本三公園の一つ水戸偕楽園とあるいは北茨城の五浦海岸と附近の溪谷など多岐にわたる名勝地ははかり多いためである。その名勝地も最近では近代的な施設が遅ればせながら次々に出てくる。観光客は年ごとに増加してゆくのはたのしみである。名勝史蹟に富む郷土の山河に無限の愛着をもつ私自身も身近な景勝地や史蹟に対してあまり知識を有していないのである。

昨年だつたか、北は花園溪谷から、南は筑波まで、足尾の山並みまであるき、はじめて接する郷土のすばらしさに感嘆を惜しまなかつたが、しかも、史蹟や天然記念物が時代の推移とともにたゞ減りゆくのは残念である。それはやむをえないことかもしれない。

○

水戸市の西端加倉井町の山林一帯で工事ができることになつて、工事は目下進捗中でここに昔から日蓮上人の浴した霊泉と伝えられる「霊泉」がある。その近辺の山林中には古墳が散在し、土器からたぐさの古代土器が発掘される。古墳は数あるが県市の文化財委員の合同調査の結果、そこそこ以上も前に集らくのあつたことが立証された。そのまま保存されることにきまつたが、それは古墳管理者側の理解ある処置によるものである。

○

「府中」石岡市は応神天皇の時代に、国造をおき、あつたところ、国分寺跡その他の史蹟が多く、ま

た古来銘酒の産地として知られている。「親は諸白、子は清水」の伝説もさることながら、水のよいのは「府中六井」の古蹟の存することによつても考えられる。前年その六井の一つが六号国道拡張工事の障害になるので取除くことになつた。そのことは幸い石岡史蹟保存会の有志のほねおりの結果、建設事務所も予定コースを多少変更したように聞いたが、時代の流れは県下各地にこうした問題がますます多くなることを覚悟しなければなるまい。

現に水戸市河和田町の古城跡附近に市道建設の計画があつて、城跡の一角が崩されることになつた。この城跡は中世江戸氏の一門、春秋上野介の居城だつたといわれているが、その城をめぐるほりの跡は今なお鎌倉末期からのおもかげを残して変形させるには惜しい文化財である。

○

水戸市内の各寺院には有名な志士や学者の墓が多くあるが、先年のこと画家林十江の墓碑が無縁仏として取払われ寺内の無縁塚に積み重ねられてあるのを発見されたことがあつた。子孫の所在が不明になると、こうしたことになる例は他にもあるが特に廃寺の墓地にそれが多し。最近愛刀家4氏の編集になる「水戸金工名作集」が出版されたが徳川時代から明治初期にかけて、名工を多く輩出してすばらしい芸術品を残したこの人たちの墓は殆んど顧りみられず、その中には無縁仏にひとしい墓もある。編集委員の一人袴塚誠氏(水戸一中教諭)は一柳友善一族の墓地を探しあててその研究を発表してくれたが、観光の途中に先人の墓掃除に努めている人はかなり多いのである。有名人の墓碑は観光会がその保存に注意し、案内の立札を建てておいてくれたらよいと思う。